

2019年度 博物館実習展アンケート分析結果に関する報告

1. はじめに

2019年度関西大学博物館実習展では、博物館実習履修者により「稲垣足穂展～イナガキタルホ×∞～」 「たけがたり～今日／京に生きる竹工芸～」 「吹田くわいの今と昔～近世から近代、そして現代へ～」の3つのテーマで展示を行った。

本調査では、各展示及び実習展全体の評価について分析・検討を行っていく。

2. 調査方法

2019年度関西大学実習展の来館者を対象に、会場である関西大学博物館特別展示室において、2019年11月10日から同年11月15日までの6日間実施した。

用紙の配布及び回収は展示室入口で行った。配布の際、来館者にアンケートへの協力をお願いした。回答してもらう来館者には、展示室内で観覧しながら、もしくは展示室入口のスペースに戻ってきてもらい回答してもらう形をとった。

3. 来館者の構成について

総来館者数508名のうち、回答者は211名であり、約38%の来館者に回答してもらうことができた。ただ、例年と比べアンケート配布数が少なくなりました。これは団体の来館によりアンケートの配布が間に合わなかったことが考えられる。

14日の突出した来館者数は本学学生が授業の一環で多く訪れたことによる。また次いで多い15日は最終日ということもあり、本学学生のみならず、職員や一般の方が、多く足を運んだためと考えられる。

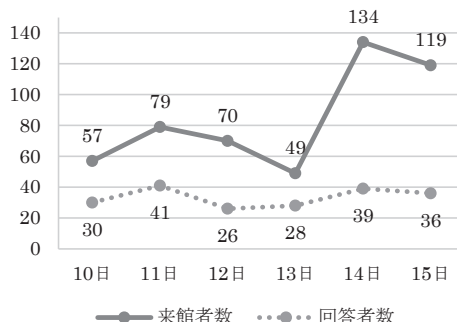


図1 来館者数及び回答者数の推移（人）

今回の博物館実習展アンケート回答者の性別の内訳は、男性87名、女性115名、無回答9名であった。以下、回答者の年代と所属別の内訳を掲載する。

年齢についての回答では、「10代」が60人で全体の約29%、「20代」が76人で全体の約36%、合計約65%と半数以上を占めた。これは図3からわかるように本学学生が多く訪れたことによる。

このことは博物館が大学内に立地していることが要因でもあるが、その他にも博物館関

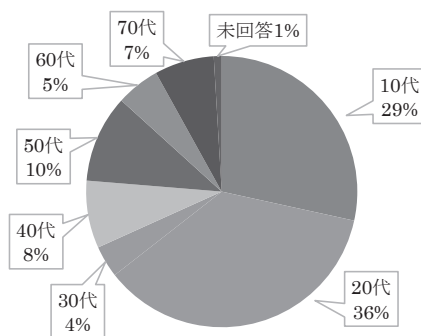


図2 回答者の年代内訳

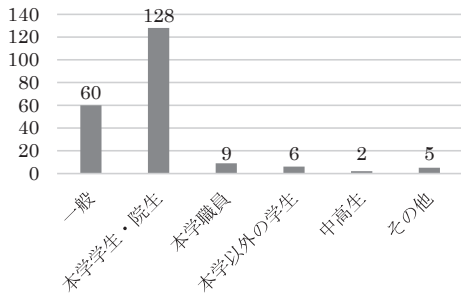


図3 回答者の所属別内訳 (人)

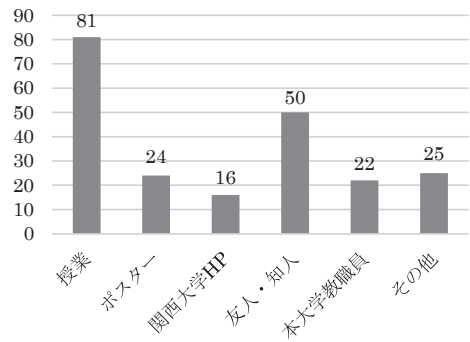


図5 認知別の内訳 (人)

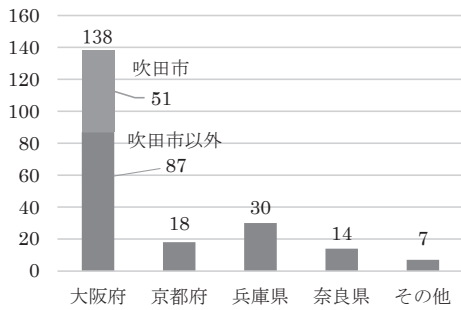


図4 回答者の住所別内訳 (人)

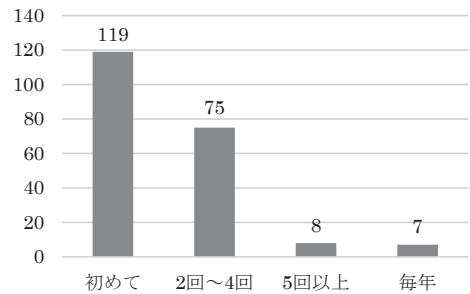


図6 来館回数別の内訳 (人)

連の講義を受講している学生が授業の一環として来館することが多いためとも考えられる。

その他と答えた人は「卒業生」などである。

住所の項目では、大阪府からの来館者が全体の約66%で、そのうち吹田市からの来館者は約37%を占めた。それ以外では兵庫県からの来館者が一番多い結果となった。

その他と答えた人の出身地としては、和歌山県や香川県などの西日本のほか、埼玉県というものも見られた。これは10日に関西大学内で様々な検定試験が行われていたことによるとみられる。

今回の実習展の認知経路は「授業」が約37%、「友人・知人」が約22%と人伝えでの認知が多いことがわかる。次いで「その他」が多いが、意見としてはSNSをあげるものが多かった。このことから、今後はSNSを使用した宣伝も重視するべきではないかと考えられる。

なお、認知経路は重複しているものも併せ

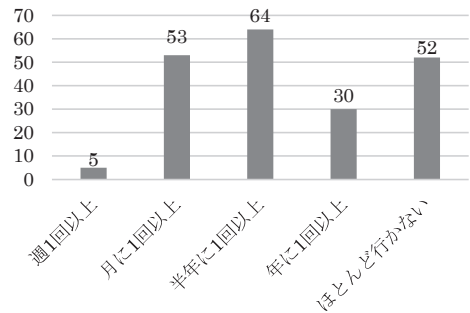


図7 博物館・美術館等の利用頻度別の内訳 (人)

て掲載している。

博物館実習展への来館回数は「初めて」が最も多く、全体の約56%を占めた。次いで「2回～4回」が多く、全体の約35%であった。

自由記述の中には「毎年楽しみにしている」という意見や「学生の頑張りを感ずる」など

といった好意的な意見も多く見られた。

博物館・美術館等の利用頻度は、「半年に1回以上」が最も多く、全体の約30%。次に「月に1回以上」が全体の約26%という結果となった。

最も少ない「週に1回以上」は全体の約3%足らずであった。

4. 考察

アンケートの回答に目を通したうえで、体裁に関して3点ほど考察する。

まず1点目は裏面の認知度の低さである。回答に関して、表面にのみ回答し、裏面は無回答のものが見られた。裏面の声掛けもさることながら、アンケート自体に裏面の存在を示す、分かりやすい記述方法を模索すべきであったと痛感している。

また中には、「稲垣足穂展」の裏面の自由記述までは記入し、その他の展示は無回答のものもいくつか見られた。自由記述は来館者の意見を知るためにも必要ではあるが、数が多すぎるとむしろ記入されなくなる恐れを感じ

た。

2点目は展示全体を評価する項目の必要性についてである。今回のアンケートでは共通質問に加え、各班の質問事項を掲載したが、くわい班の最後の質問が「展示の中で特に印象に残ったものはありますか。よろしければ、その理由も併せてお聞かせください。また、今回の展示についてのご意見・ご感想があれば、ご自由にお書きください。」というものであった。これに対する回答内容からくわい班単体の質問ではなく、実習展全体の質問内容であると思った来館者が多いように見受けられる。そのため今後は、最後に展示全体の評価を自由記述する項目の必要性を感じた。

3点目は各展示の強調についてである。回答を見ていると、足穂班の自由記述欄にくわい班の回答をしているなどの例がいくつか見られた。そのため、今後は各展示名のみポイントを変更するなど、どの展示の質問なのかより強調する方法を考える必要がある。

(眞野美穂、白井彪史)

【各班の展示について】

「稲垣足穂展～イナガキタルホ×∞～」の展示について

1. はじめに

私たちの班は「稲垣足穂展～イナガキタルホ×∞～」というタイトルのもと、「足穂の生涯」「足穂と天体」「今に生きる足穂」の3つの章に分けて展示を行った。今回の展示では、稲垣足穂の作品でよくモチーフにされる「天体」に焦点を当て、稲垣足穂の世界観と、稲垣足穂にインスピレーションを受けた現代作家の方々が創る新たな稲垣足穂の世界観の魅力を、初版本や遺品、現代作家の方々の作品を通して来館者に伝えることを目的とした。

2. 共通の質問と分析結果

全班共通の質問として「展示内容について」「展示の見やすさについて」「展示の解説について」の3つの質問を5段階評価で評価していただいた。なお無回答のものは結果から除外した。

図1は「展示内容について」の回答を分析したグラフである。「とても良い」が約47%、「良い」が約43%、「普通」が約9.2%であった。

図2は「展示の見やすさについて」の回答を分析したグラフである。「とても良い」が約52%、「良い」が約36%、「普通」が約10%、

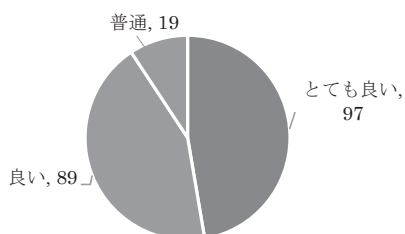


図1 展示の内容について (人)

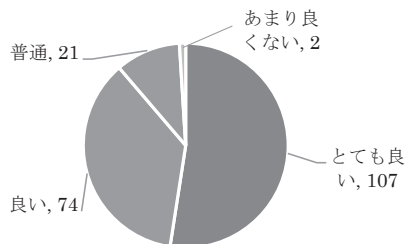


図2 展示の見やすさについて (人)

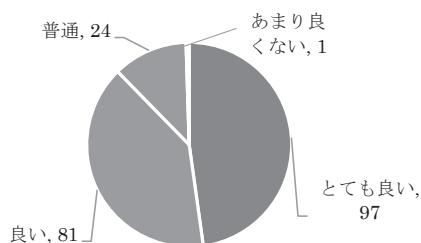


図3 展示の解説について (人)

「あまり良くない」が約1%であった。

図3は「展示の解説について」の回答を分析したグラフである。「とても良い」が約47%、「良い」が約39%、「普通」が約11%、「あまり良くない」は1%にも満たなかった。

以上、私たちの展示ではどの質問でも「とても良い」が最も多く、次に多いのが「良い」であり、「とても良い」と「良い」が大半を占める結果となった。また、「良くない」という回答はどの質問にもなかった。

3. 班別の質問と分析結果

私たちの班では、各班共通の質問とは別に、下記の質問を加えた。なお無回答のものは結果から除外した。

- ① 「あなたは以前から稲垣足穂について知っていましたか？」(良く知っていた、少し知っていた、知らなかったの3段階)
- ② 各班共通の質問である「展示の解説について」に、「特に稲垣足穂の執筆作品についての解説はいかがでしたか、ご感想をお書きください」という自由記述形式の質問を追加
- ③ 「展示の中で特に印象に残ったものはありますか。よろしければ、その理由も併せてお聞かせください。また、今回の展示についてのご意見・ご感想があれば、ご自由にお書きください。」

以下、各質問の分析結果をまとめていく。

① 稲垣足穂の認知度について

図4は「あなたは稲垣足穂を以前から知っていましたか？」という問いに3段階で回答してもらった結果を分析したグラフである。「知らなかった」が約79%で最も多く、次いで「少し知っていた」が約11%、「良く知っていた」が約9%で最も少なかった。

② 執筆作品の解説について

稲垣足穂の執筆作品の解説について自由記述式で書いていただく質問では、多くの意見・感想をいただいた。そのうちのいくつかを評価点、改善点に分けて以下に記す。

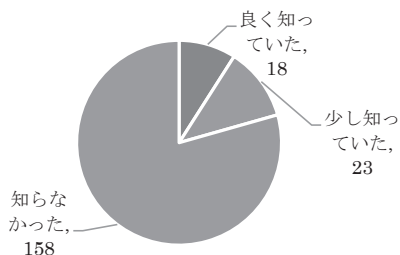


図4 稲垣足穂の認知度(人)

(評価点)

- 要点をうまく紹介していた
- 実際に作品を読んでみたくなるような内容だった
- 『一千一秒物語』が重要な作品だというのが伝わった
- 『一千一秒物語』から抜粋したフレーズ集がわかりやすかった

(改善点)

- 内容よくわからなかった
- あらすじがもっとあれば良かった
- もう少し突っ込んだ解説がほしい
- 解説員に説明されないとわからない

③ 展示についての意見・感想、印象に残ったもの

この質問では、特に印象に残った展示、また、展示に対する意見・感想について多くの回答をいただいた。そのうちのいくつかを以下に記す。

○印象に残った展示

- 葉巻や色鉛筆などの遺品
- 『星のcigarette』や『月光密輸入』などの現代作家の方々の作品
- 「地上とは思い出ならずや」という稲垣足穂の短冊の言葉
- 『一千一秒物語』から抜粋したフレーズ集

○意見・感想

(評価点)

- 展示の仕方が美しく、良い雰囲気だった
- 稲垣足穂の独特の世界観が伝わった
- 解説員の説明がわかりやすかった
- キャプションがおしゃれ
- 実際に作品を読めるようになってるのがよかった

- 稲垣足穂は色々な人に影響を与えた人だと感じた
- 関西大学の学生が企画したことに驚いた

(改善点)

- 難しく、ついていけない
- 全体的に抽象的で世界観が分かりにくい
- 解説員の説明を聞かないとわからない
- 稲垣足穂の展示をした理由、魅力をもっと知りたい
- 実物と複写の区別が分かりにくい（パネルに実物か複写かの表記がない）
- 解説文のフォントが見づらい
- 壁のピンが気になった。隠す努力をしてほしい

4. 考察

前述のとおり、稲垣足穂について知っている方は、少しだけ知っている方も含めて2割ほどしかおらず、知らないという方が約8割を占めていた。そうした中で、今回の展示で「稲垣足穂の世界観が伝わった」「興味を持った」という評価を多くいただいた。しかしその一方で「理解できなかった」「あまりわからなかった」という意見も多く、また、良い評

価をしていただいた方でも解説員の説明があったから理解できたという方が多かった。

これを踏まえ、解説員の説明がなくても、見るだけである程度来館者に展示の意図が伝わるように展示方法を改善する必要がある。

また、今回の私たちの展示は展示全体で「天体」のイメージを表現しており、例えば、パネルは紺色の背景に白色の文字を使い、「天体」のイメージに近いデザインにした。これに対し、「『天体』のイメージが想像される」「綺麗だ」という良い評価をいただいた一方で、見づらいという意見も多く、デザインの工夫が裏目に出たと感じた。

全班共通の質問では、すべての質問で約9割の方々に「とても良い」または「良い」と回答していただいたが、班別の質問では前述のような来館者からのご指摘をいただき、反省すべき点も多い結果となった。

最後に、来館者の方々が私たちの展示をきっかけに、稲垣足穂という人物、また、作品の世界観について関心を持っていただければ幸いである。

(細谷昂矢)

「たけがたり～今日／京に生きる竹工芸～」の展示について

1. はじめに

私たちの班は「たけがたり～今日／京に生きる竹工芸～」というテーマで京都の竹工芸について全体を四つに分けて展示を行った。第一、第二展示では竹利用の歴史と京都における竹の利用の変遷について述べ、第三、第四展示では実際の竹工芸の製作とその作品を展示した。

今回の展示は京都における竹工芸の歴史とそれらが持つ魅力について来館者に知ってもらうことを目的とした。

2. 共通質問とその分析

各班共通の質問として「展示内容について」「展示の見やすさについて」「展示の解説について」の3つの質問を5段階評価で設けた。なお、無回答のものは結果から除外した。

図1は「展示内容について」の回答を分析したグラフである。

評価としては「とても良い」「良い」が約44%、「普通」が約11%であった。

図2は「展示の見やすさについて」の回答を分析した結果である。

「とても良い」が約48%、「良い」が約37%、「普通」が約12%、「あまり良くない」が約1

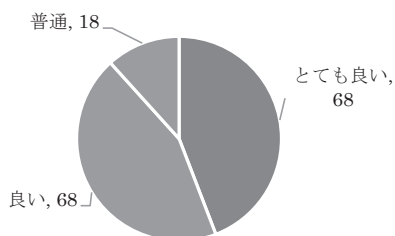


図1 展示の内容について (人)

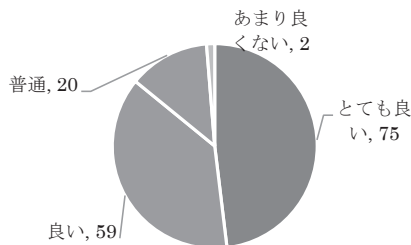


図2 展示の見やすさについて (人)

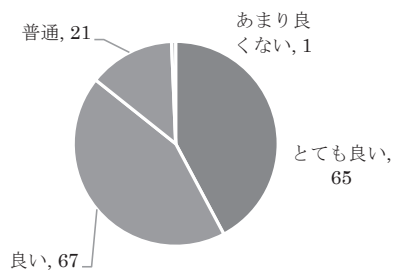


図3 展示の解説について (人)

%だった。

図3は「展示の解説について」の回答を分析した結果である。

「とても良い」が約42%、「良い」が約43%、「普通」が約13%、「あまり良くない」が約1%だった。

以上の結果から、私たちの班における共通質問の評価としてはほとんどが「とても良い」「良い」で占められていることがわかる。

3. 班別の質問と分析結果

班固有の質問としては「自宅に竹製品はあるか」について質問を設けた。

図4は「自宅に竹製品はあるか」についての回答結果である。この質問は「はい」「いいえ」の二択問題とした。

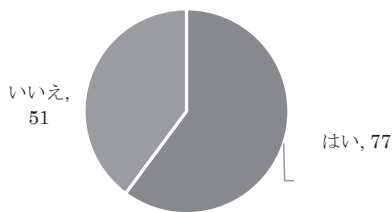


図4 「自宅に竹製品があるか」(人)

「はい」との回答が約60%、「いいえ」との回答が約40%だった。

この結果から、現代でも竹製品が一般家庭において一定の割合で存在していることが分かる。

上記の設問とは別個に印象に残ったこと・ものについて自由記述で来館者に回答していただいた。内容は以下の通りである。

- 畳や机を使って使用環境を再現していたこと
- 行李
- 京都の竹作品を借りてきたこと
- 竹工芸の美しさ
- 製品の多さ
- 人々の生活に根付いていると実感した
- クラッチバック
- 実物を触れたこと
- 土器の展示。裏面の写真が分かりやすい
- 猿はじき（三重特有のものと知れた）
- 2章の内藤湖南の展示と3,4章の竹工芸の展示
- 古代から現代にいたるまでの竹と日本人のかかわりについて知れた
- 解説者の熱意ある説明でより深く理解できた
- 古文書資料が多く展示されていたこと
- 最近の竹製品がおしゃれで便利そう
- 竹製品の良いアピールになっている

- 3章→4章の流れがよかった
- 細い竹で編み上げる技術の高さ
- 磨竹網代編花見籠
- 4章が現代でどのように受け継がれているかわかってよかった
- 竹ひごを実際に触れたところ
- 漢文の書物
- 竹工芸を作る器具
- 今も昔もおしゃれに関心があることがわかる
- 竹製品が欲しくなる
- かばん（竹らしくない色が印象的）
- パネルが見やすい
- 竹ひごと巾ひきの違いが分かったこと
- お弁当箱
- うちわや物入れ
- 竹の生態から伝統工芸品まで幅広く展示されていたこと
- キャプションの紙の質感と色が展示物を意識していてよかった
- お茶の歴史
- 竹の弁当箱に殺菌効果があることを知れた
- 内藤湖南の所有品
- 竹トンボ
- 職人が手作りしていた時代を懐かしく感じた
- 竹トンボから小中学校での竹づくりの授業を思い出した
- ポスターがシンプルで印象深い

以上から考察できることとしては、展示品本体に着目している人と展示内容に着目している人の二通りの反応があることである。

次いでアンケートで指摘していただいた改善点については以下の通りである。

- 時代順や内容に少し脈絡がない

- キャプションの内容が1,2章と3,4章で異なる
- ルビが欲しい
- 竹製品の加工過程が少しわかりにくい
- 土器になぜ竹の模様があるのかわからなかった
- 大工道具などどこかに「個人蔵」と書いたほうが良い
- 竹トンボの軸の右にあるものの説明がない
- 竹林についてももう少し触れてほしい
- 横書きの説明文が逆走している印象
- 漢文の説明文が欲しい
- 竹細工の細かい作業の解説が欲しい
- 文字が小さい
- サブタイトル（京に生きる）を活かしきれしていない。京都の竹工芸の魅力をより一層伝えてほしい

4. 考察

アンケートの共通質問の結果及び印象に残ったものと、指摘を受けた改善点を総合して考察したところ、おおむね好意的な印象を持たれた来館者が多く、また京都の竹工芸について知る機会になったようである。これは竹

製のかばんやクラッチバックなどが視覚的に美しく印象に残ったことや、竹について深く知ること、実際の竹工芸の製造過程について知ることでの知的探求心を刺激できたためであると考えられる。また実際展示に際して第三展示のケースに来館者が差し掛かったあたりで展示品とおなじものを実際に触ってもらうというハンズオン展示を行ったこともあり、それを評価する声もあった。

その一方で、パネルの文字の大きさについての指摘や専門用語などの解説不足を指摘する声もあったことは、展示内容が若干過密気味であったことが大きく影響していると思われる。これは反省すべき点である。

以上の事柄をまとめると、今回の展示は概ね高評価であったといえるが、細部を見ると改善できる点は多くあった。しかし京都の竹工芸について知ってもらうという当初の目的は十分に果たせたのではないだろうか。

今後、このようなテーマで展示を行うかは分からないが、今回のことを踏まえ次回に活かしていきたい。

(白井彪史)

「吹田くわいの今と昔 ー近世から近代、そして現代へー」の展示について

1. はじめに

私たちの班は「吹田くわいの今と昔ー近世から近代、そして現代へー」というタイトルのもと、御所へ献上され、様々な文献にも登場する近世から、吹田くわいの研究を行った牧野富太郎、そして絶滅の危機を乗り越え保存活動が行われる現代へと歴史を追いつつも、「くわい」そのものや吹田市との関係など、吹田くわいの幅広い展示を行った。

今回の展示では吹田の伝統野菜である「吹田くわい」について歴史を中心に、認知度をあげることを目的とした。

2. 共通の質問と分析結果

全班共通の質問として「展示内容について」「展示の見やすさについて」「展示の解説について」の3つの質問を5段階評価で設けた。なお、無回答のものは結果から除外した。

図1は共通質問「展示内容について」の回答を分析したグラフである。回答者159人中「とても良い」と回答した人が最も多い約45%、次いで僅差だが「良い」が約43%を占めた。

ただ、自由記述内には「吹田くわいが具体的にわからない」といった意見も見られ、改

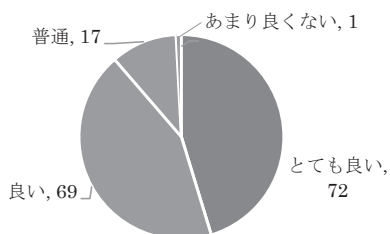


図1 展示の内容について (人)

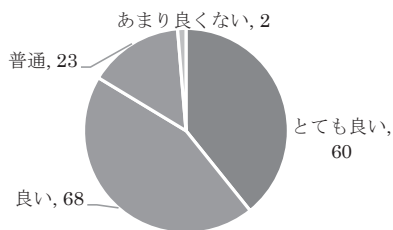


図2 展示の見やすさについて (人)

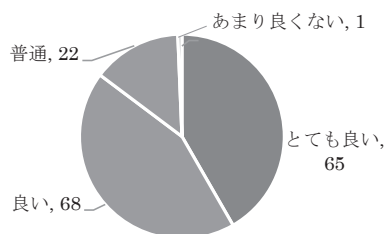


図3 展示の解説について (人)

善の余地があると考えられる。

図2は共通質問「展示の見やすさについて」の回答を分析したグラフである。回答者153人中最も多かったのは「良い」で約45%、次いで「とても良い」が約39%を占めた。

図3は共通質問「展示の解説について」の回答を分析したグラフである。回答者156人中最も多かったのは、これも「良い」で約43%、次いでこれもまた僅差で「とても良い」が約42%という結果となった。

3. 班別の質問と分析結果

私たちの班では全班共通の質問に加えて「観覧後に吹田くわいに興味を持てたか」、興味を持てた場合どの展示からそう思ったのか、最後に印象に残った展示内容の自由記述欄を

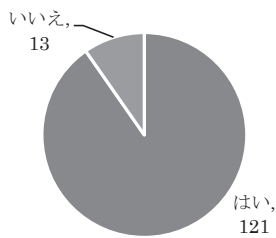


図4 「吹田くわいに興味を持てたか」(人)

追加した。なお無回答のものは結果から除外した。

図4は「吹田くわいに興味を持てたか」への回答を分析したグラフである。このグラフから回答者の約90%というほとんどの人が、観覧後に吹田くわいに興味を持ってもらえたとわかる。

以下、特にどの展示を見て興味を持てたのか(抜粋)を掲載する。

(興味を持った内容)

- 造花。くわいの花と実のなり方が分かり、植物そのものへの理解が深まった
- 他のくわいと系統が違うなど、序盤にくわいの基礎知識が知れたこと
- くわいだけではなく、吹田の歴史も知ることができた
- 献上行列の記述。吹田が上皇の直轄地になっていることを初めて知った
- ボランティアで実際に栽培していること
- ミニコーナーの設置により、大阪全体の伝統野菜について興味を持てるようになっていく点

以下、印象に残った内容や来館者からいただいた評価点・改善点(抜粋)について掲載する。

(印象に残った内容)

- くわいの実物がおいてあったこと
- 江戸時代の文献により、吹田くわいが当時の名産品であるとわかりやすかった
- くわいを入れるわら細工
- 吹田市の地図で宅地化の変遷に驚いた
- 伝統野菜18点を見て、地産地消が多くできるようにしてほしいと思った
- 吹田くわいの特徴や歴史を知れたこと。友人にも広めたいと思えた

(評価点)

- 関大が吹田に位置するため、地域のつながりを重視した展示内容でよかった
- 吹田市の歴史と産業を大切に扱いたいという気持ちが表れている
- 解説が分かりやすかった
- ストーリーがしっかり構成されている
- 展示を見たあとボランティアに参加してみたいと思えた

(改善点)

- 内容が分かりにくい
- パネルの作りが粗く、イラストを入れるなど、もっとビジュアル的な工夫が欲しい
- 植物学の中の吹田くわいの存在位置をもう少し詳しく知りたい
- くわい料理の写真や味の感想があるとイメージしやすい
- 文字が多く、圧がある

4. 考察

以上の質問事項を分析したグラフや来館者からいただいた意見をもとに「吹田くわいの今と昔—近世から近代、そして現代へ—」の展示を全体的に考察する。

展示についての共通質問ではいずれも来館者の約80%以上の方が「とても良い」もしくは

「良い」と回答していただいたため、一定以上の評価はある展示と考えられる。

ただ、数多くの評価点をいただいた反面、改善点も様々なものがみられた。中でもくわいの料理や味に関する指摘は、展示構成を考える段階から議論に上がっていたため、もっと意欲的に吹田くわいを探すべきだったと感じている。また文字の多さについても、もっと省略が必要であったと痛感している。このことは共通質問の「展示の見やすさ・解説について」で「良い」のほうが多いことへ影響していると考えられる。

自由記述では「初めて知った」や「一度食

べてみたくなった」などの意見が多くみられたため、少なからず吹田くわいの知名度をあげ、今後興味を持ってくれる方を増やすことにも成功したのではないかと推測する。また、関西大学で行われているということもあり、ボランティアの内容に興味を持った方が比較的多かったような所感である。

最後に、今回の展示をきっかけに吹田の伝統野菜である「吹田くわい」に関して、興味を持つ方が増え、今後、より一層保存・普及活動が活発となれば幸いである。

(眞野美穂)